

2011年7月4日 信濃毎日新聞



キャンプ初日、3人1組で同じ動きをしながらコミュニケーション能力を高め合った



みんな一緒に
最終日にはキャンプ地を一般開放し、地元住民を交えて写真撮影会を行った



テラスで食事を楽しむ参加者。緑の中で会話も弾む

変身の技学ぶ 鏡に向かい、真剣な表情でクラウンメイクの講座を受ける



全国の道化師 木曾に集合

国内初芸と技磨く合宿「クラウンキャンプ」

全国から集まったクラウン(道化師)が合宿をしながら芸と技を磨く国内初の「クラウンキャンプ」は3日までの4日間、木曾郡木曾町の木曾文化公園で行い、県内の2人を含む30人が参加した。

参加者たちは同公園内の宿泊施設で寝食をともにしながら、ジャグリング(お手玉などの曲芸)やバルーン(風船細工)、メイクなど約20講座を受講した。

1日は、学校統合で本年度で閉校となる岡町上田小学校を訪問し、児童70人と近隣住民の前でパフォーマンスを披露。初めて生で見た6年生の原田実君12は「一緒に皿回しをした。表情が豊かでおもしろかった。2日はキャンプ地のホールで一般開放の無料ショーも。最終日には写真撮影会を開いて木曾の人たちと交流した。

今回のキャンプは、米国ウィスコンシン大学で1981年から2008年まで続いたクラウンキャンプの公認を得て開催。同キャンプで10年以上講師を務めたクラウン劇団「OPEN SESAME(オープン・セサミ)」(東京都)代表のロネさん(41)が、4年前に埼玉県の舞台技術研修会で木曾文化公園の小谷清さん(44)と知り合いに。キャンプ地を国内で探していたロネに昨年、小谷さんが町内での公演を依頼。同公園には宿泊施設もあることから、キャンプ開催が決まった。

米国の開催では多い時で世界各国から400人ものクラウンが集まったが、今回は震災や原発事故の影響もあり海外からの参加はなかった。「クラウンといえは木曾と言われるように、来年も続けてもらえたらうれしい」と小谷さん。主催側も今回のキャンプを精査し、今後につなげられたらと話した。

写真・文中村 桂吾



バルーンを使って木曾町上田小の児童と交流



息の合ったパフォーマンスを披露する講師のロネ(左)とジーシ。2人に憧れてキャンプに参加したクラウンも多い